

二酸化硫黄の測定結果(平成18年度)

大気中の二酸化硫黄は、大気汚染物質の中でも代表的な物質であります。主として重油等石油系燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するもので、その主な発生源は、工場・事業場のばい煙発生施設です。

平成18年度に、二酸化硫黄について18測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、これらを平成17年度と比較すると、全般的に横ばいの傾向にあります。

年平均値は、中津川測定局の0.009ppmが最も高く、乗鞍測定局の0.000ppmが最も低い状況にありました。

なお、環境基準はすべての測定局で達成していました。

平成18年度二酸化硫黄測定結果

地域	測定局名	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	年平均値(ppm)	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値(ppm)	日平均値の2%除外値(ppm)	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価の適否	平成16年度	
					時間	%	日	%					年平均値(ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	364	8645	0.002	0	0.0	0	0.0	0.023	0.005	無	○	0.003	○
	岐阜南部	363	8659	0.004	0	0.0	0	0.0	0.022	0.009	無	○	0.007	○
	岐阜北部	365	8711	0.005	0	0.0	0	0.0	0.031	0.011	無	○	0.005	○

	各務原	364	8709	0.006	0	0.0	0	0.0	0.035	0.011	無	○	0.005	○
	羽島	365	8756	0.007	0	0.0	0	0.0	0.024	0.012	無	○	0.006	○
	平均	/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	0.005	/
西濃	大垣中央	363	8691	0.007	0	0.0	0	0.0	0.034	0.012	無	○	0.008	○
	大垣南部	348	8376	0.006	0	0.0	0	0.0	0.039	0.014	無	○	0.008	○
	大垣西部	219	5280	0.004	0	0.0	0	0.0	0.020	0.006	無	—	0.005	○
	大垣外濑	364	8744	0.004	0	0.0	0	0.0	0.031	0.009	無	○	0.004	○
	平均	/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/
	美濃加茂	364	8735	0.006	0	0.0	0	0.0	0.035	0.011	無	○	0.005	○
東濃	土岐	360	8652	0.004	0	0.0	0	0.0	0.024	0.008	無	○	0.005	○
	瑞浪	337	8087	0.005	0	0.0	0	0.0	0.022	0.009	無	○	0.005	○
	笠原	365	8743	0.007	0	0.0	0	0.0	0.028	0.012	無	○	0.006	○
	中津川	360	8658	0.009	4	0.0	0	0.0	0.125	0.021	無	○	0.009	○

	中津川柳	365	8725	0.007	1	0.0	0	0.0	0.110	0.016	無	○	0.007	○
	中津川上金	361	8681	0.006	0	0.0	0	0.0	0.048	0.010	無	○	0.004	○
	平均	/	/	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/
飛驒	高山	364	8722	0.004	0	0.0	0	0.0	0.021	0.007	無	○	0.004	○
	乗鞍	360	8629	0.000	0	0.0	0	0.0	0.013	0.003	無	非適用	0.000	/
	平均	/	/	0.002	/	/	/	/	/	/	/	/	0.002	/
県平均	/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0.005	/

備考)

1 県地球環境課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間 6,000 時間以上あり、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続せず、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日数が年間を通じて 2% 以下であることを示す。

3 「長期的評価の適否」欄の「-」は、年間の測定時間が 6,000 時間に満たないことを示す。

○過去 10 年間の経年変化

二酸化硫黄の年平均値の経年変化

